



景観重要建造物

●名称 : 日本二十六聖人記念館

●指定番号 : 第 21 号

●指定日 : 平成 31 年 3 月 8 日

●所在地 : 長崎市西坂町 2400

●概要 : 鉄筋コンクリート造、4 階建て

●建造年 : 昭和 37 年

●指定理由 : 長崎県指定史跡である日本二十六聖人殉教地(西坂公園)の敷地内に建立している建造物である。キリシタン迫害によってこの地で十字架上の断罪に処せられた日本二十六聖人を記念するために昭和 37 年(1962 年)に建築された。

設計は建築家 今井兼次。設計者は、建造物のデザインに宗教的な表現や特徴を用いて、殉教的意義を盛り込んでいる。

建物東側は、聖人の徳を讃えた「望徳の意義」と殉教者の精神を表現したモザイク壁画が特徴であり、キリストの神秘体、超自然的希望を表す暁の星、殉教の血のリボンの3つの要素で構成されている。

建物西側は、「信徳の壁」と称され、巨大な十字架を主体とし、天使、聖霊の賜、聖心、火焰などの他に、殉教者二十六の十字架群を下段に配し、殉教地と相対する稲佐山からの遠望を主としてデザインされている。

建物南側は、「愛徳」の精神が壁間に十五の「ロザリオ十五玄義」のモザイクで表現され、下段五面は苦しみの玄義、中段は喜びの玄義、上段は栄えの玄義となっている。また、外観の主体構造であるルーバーの槍型の添柱にはその上端から下端にかけて殉教の鮮血を思わせるような朱色の陶片モザイクが象嵌され、その添柱の下部一面に広がる木格子は、二十六聖人の殉教当時の竹矢来をモチーフにされている。

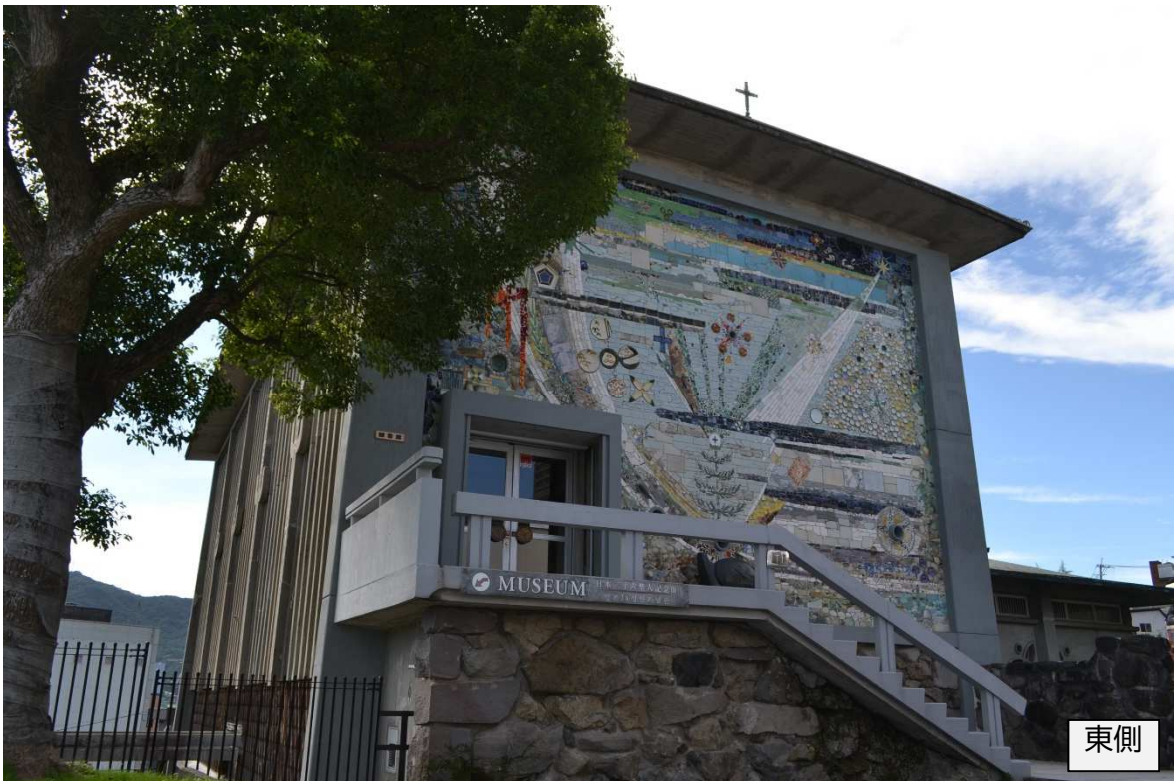
建物北側は、二十六個の星がモザイクされている。

また、モザイクには、日本二十六聖人が京都・大阪で捕えられて、長崎に搬送された道中の窯元の陶磁器やメキシコや、スペインから贈られたものが用いられ、日常生活の姿と宗教との関わりを示している。

以上のとおり、日本におけるキリシタン迫害の歴史上重要な場所である西坂の地において、その歴史や宗教的な特徴をその外観の独特のデザインで表現された貴重な景観を有しており、市域全体の歴史、文化等の景観上、特に重要なものである。

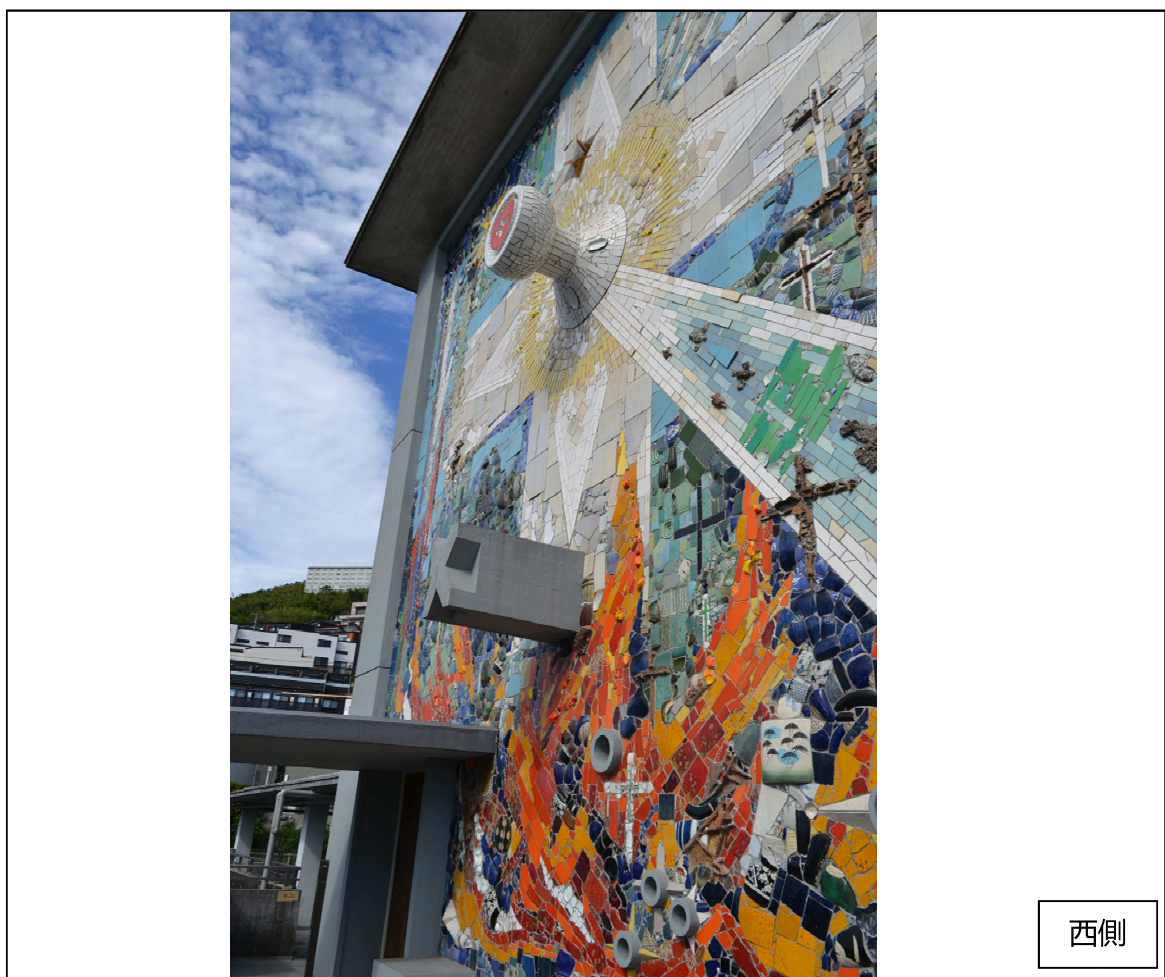
現況写真







東側（後方）



西側

